

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成21年8月7日

【四半期会計期間】 第41期第1四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

【会社名】 新日本空調株式会社

【英訳名】 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡本隆裕

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

【電話番号】 東京(03)3639-2700(代表)

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 荒井伸

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

【電話番号】 東京(03)3639-2700(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 満山健

【縦覧に供する場所】 新日本空調株式会社 関東支店
(千葉県中央区中央一丁目11番1号)

新日本空調株式会社 横浜支店
(横浜市中区住吉町四丁目45番1号)

新日本空調株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅南一丁目24番30号)

新日本空調株式会社 大阪支店
(大阪市北区堂島浜一丁目2番6号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次		第40期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第41期 第1四半期連結 累計(会計)期間	第40期
会計期間		自 平成20年 4月1日 至 平成20年 6月30日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 6月30日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
完成工事高	(百万円)	17,320	14,788	92,864
経常利益 又は経常損失()	(百万円)	53	767	2,550
四半期(当期)純損失()	(百万円)	159	427	368
純資産額	(百万円)	28,662	26,694	26,028
総資産額	(百万円)	70,971	58,438	64,938
1株当たり純資産額	(円)	1,134.79	1,056.98	1,030.63
1株当たり四半期(当期) 純損失()	(円)	6.31	16.95	14.58
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	40.4	45.7	40.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	533	1,536	3,707
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	376	803	641
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	111	806	2,069
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	2,081	3,945	3,976
従業員数	(名)	1,145	1,261	1,218

(注) 1 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失を計上しており、また、潜在株式がないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社ならびに子会社3社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当第1四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	1,261
---------	-------

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 従業員数には契約社員、出向受入者を含み、執行役員、相談役、顧問は含んでおりません。なお、執行役員（専任）は18名、相談役は1名、常勤顧問は2名であります。

(2) 提出会社の状況

平成21年6月30日現在

従業員数(名)	972
---------	-----

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 従業員数には契約社員、出向受入者を含み、執行役員、相談役、顧問は含んでおりません。なお、執行役員（専任）は18名、相談役、常勤顧問は各1名であります。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

当社グループが営んでいる空調工事業では生産実績を定義することが困難であり、請負形態をとっているため販売実績という定義は実態に即しておりません。

よって、受注及び販売状況については、「財政状態及び経営成績の分析」において記載しております。

なお、参考のため提出会社個別の事業の状況は次のとおりであります。

受注工事高、完成工事高、繰越工事高

期別	工事別	期首繰越 工事高 (百万円)	期中受注 工事高 (百万円)	計 (百万円)	期中完成 工事高 (百万円)	期末繰越 工事高 (百万円)
前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	一般空調	42,281	29,429	71,711	15,611	56,099
	原子力施設 空調	2,646	1,274	3,920	1,007	2,913
	計	44,928	30,703	75,632	16,618	59,013
当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	一般空調	38,527	17,953	56,481	12,809	43,671
	原子力施設 空調	2,984	1,182	4,167	1,338	2,828
	計	41,512	19,136	60,648	14,148	46,500
前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	一般空調	42,281	75,779	118,061	79,534	38,527
	原子力施設 空調	2,646	8,539	11,186	8,201	2,984
	計	44,928	84,319	129,247	87,735	41,512

(注) 1 前期以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額の増減があるものについては、期中受注工事高にその増減額を含めております。したがって、期中完成工事高にもかかる増減額が含まれております。

2 期末繰越工事高は、(期首繰越工事高+期中受注工事高-期中完成工事高)に一致します。

受注工事高

期別	区分	国内		海外		合計 (B) (百万円)
		官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	(A) (百万円)	(A)/(B) (%)	
前第1四半期会計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	一般空調	4,422	24,376	630	2.1	29,429
	原子力施設空調	16	1,257			1,274
	計	4,438	25,634	630	2.1	30,703
当第1四半期会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	一般空調	4,680	12,131	1,141	6.4	17,953
	原子力施設空調	179	1,002			1,182
	計	4,860	13,134	1,141	6.0	19,136

(注) 受注工事高のうち請負金額10億円以上の主なものは、次のとおりであります。

前第1四半期会計期間	(株)東芝	四日市工場240棟第4期機械設備工事
	清水建設(株)	オリンパス(株)技術開発センター石川新棟建設工事
	(株)JR西日本テクノス	JR大阪駅北ビル
当第1四半期会計期間	三井住友建設(株)	千葉工業大学津田沼校舎新2号棟新築工事
	川崎市	井田病院改築空気調和設備工事

完成工事高

期別	区分	国内		海外		合計 (B) (百万円)
		官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	(A) (百万円)	(A)/(B) (%)	
前第1四半期会計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	一般空調	478	13,769	1,363	8.7	15,611
	原子力施設空調	53	953			1,007
	計	532	14,722	1,363	8.2	16,618
当第1四半期会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	一般空調	1,284	10,313	1,211	9.5	12,809
	原子力施設空調	3	1,335			1,338
	計	1,288	11,648	1,211	8.6	14,148

(注) 1 海外工事の地域別割合は、次のとおりであります。

地域	前第1四半期会計期間(%)	当第1四半期会計期間(%)
東南アジア	19.5	81.0
その他	80.5	19.0
計	100.0	100.0

2 完成工事のうち請負金額10億円以上の主なものは、次のとおりであります。

前第1四半期会計期間	(株)東芝	四日市工場240棟第3期機械設備工事
当第1四半期会計期間	三井物産(株) 代理人 物産不動産(株)	三井物産本店ビル ファンコイルユニット更新工事

3 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先およびその割合は、次のとおりであります。

前第1四半期会計期間	(株)東芝	4,240百万円	25.5%
	鹿島建設(株)	2,040百万円	12.3%
当第1四半期会計期間	鹿島建設(株)	1,968百万円	13.9%

手持工事高（平成21年6月30日現在）

区分	国内		海外		合計 (B) (百万円)
	官公庁 (百万円)	民間 (百万円)	(A) (百万円)	(A)/(B) (%)	
一般空調	10,571	29,728	3,370	7.7	43,671
原子力施設空調	403	2,424			2,828
計	10,975	32,153	3,370	7.2	46,500

(注) 手持工事のうち請負金額10億円以上の主なものは、次のとおりであります。

(株)東芝	東芝本社ビル空調改修工事	平成26年3月完成予定
清水・銭高共同企業体	(仮称)室町東地区開発計画2-2街区新築工事	平成22年9月完成予定
(株)竹中工務店	土佐堀ダイビル新築工事	平成21年7月完成予定
清水建設(株)	(仮称)新横浜 - Bビル新築工事	平成21年10月完成予定
鹿島・大成建設共同企業体	(仮称)三越銀座店 新館共同ビル建築工事	平成22年7月完成予定

2 【事業等のリスク】

当第1四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの四半期連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この四半期連結財務諸表の作成に当たり、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。貸倒引当金、工事進行基準適用工事の予定利益率等に関する見積りおよび判断について、継続して評価し、過去の実績や状況に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は異なる場合があります。

(2) 経営成績の分析

当第1四半期連結会計期間における国内経済は、世界同時不況の影響により悪化が続いていた生産や輸出に下げ止まりの兆しが見え始め、最悪期を脱した底打ち感や持ち直しの動きがあるものの、景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。

建設業界におきましても、企業業績や資金調達環境の悪化による民間設備投資の大幅減少や、公共投資の低調な推移により、依然として厳しい事業環境にあります。

こうした環境の中で、当第1四半期連結会計期間における連結業績につきましては、連結売上高147億8千8百万円（前年同四半期比14.6%減）、営業損失9億1千万円（前年同期 営業損失2億7千3百万円）、経常損失7億6千7百万円（前年同期 経常損失5千3百万円）、四半期純損失4億2千7百万円（前年同期 四半期純損失1億5千9百万円）となりました。

なお、当社グループの売上高は、通常の営業の形態として、期末に完成する工事割合が大きく、一方で、販売費及び一般管理費はほぼ均等に発生するため、利益が期末に偏るといった季節的変動があります。

(3) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、584億3千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ64億9千9百万円減少しております。主な要因は、受取手形・完成工事未収入金の減少88億1千3百万円であり、

負債は、317億4千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ71億6千4百万円減少しております。主な要因は、支払手形・工事未払金の減少59億6千8百万円であり、

純資産は、266億9千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億6千5百万円増加しております。主な要因は、その他有価証券評価差額金の増加12億2千8百万円であり、

(4) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少による収入が仕入債務の減少による支出を28億4千8百万円上回ったこと等により、15億3千6百万円となり、前年同四半期連結会計期間のマイナス5億3千3百万円と比較すると20億7千万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の取得による支出5億9千7百万円、定期預金の預入による支出1億円等により、マイナス8億3百万円となり、前年同四半期連結会計期間のマイナス3億7千6百万円と比較すると4億2千7百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金の純減少額5億3千2百万円と配当金の支払額1億8千9百万円により、マイナス8億6百万円となり、前年同四半期連結会計期間のマイナス1億1千1百万円と比較すると6億9千5百万円の減少となりました。

これにより当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、39億4千5百万円となり、前年同四半期連結会計期間の20億8千1百万円と比較すると18億6千3百万円の増加となりました。

(5) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

当社は、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的として、平成19年6月22日開催の第38回定時株主総会において、株主の皆様への承認を受け、当社株式の大量取得行為に関する対応策（以下「本プラン」といいます。）を導入いたしました。

1) 本プランの概要

本プランは、当社株式に対する買付等が行われる場合の手続きを明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報と時間を確保するとともに、買付者等との交渉の機会を確保することにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的としております。

本プランは、当社の発行済株式総数の20%以上となる株式の買付または公開買付を実施しようとする買付者等には、必要な情報を事前に当社取締役会に提出していただきます。当社取締役会は、独立性の高い3名以上の社外監査役および社外有識者（弁護士、税理士、公認会計士、学識経験者および取締役として経験のある社外者またはこれに準ずる者）で構成する独立委員会を設置し、独立委員会は、独立した外部専門家（弁護士、税理士、公認会計士、ファイナンシャルアドバイザーおよびコンサルタント等）の助言を得たうえ、買付内容の評価検討、当社取締役会の提示した代替案の検討、買付者等との交渉、株主の皆様に対する情報開示を行います。買付者等が、本プランに定めた手続きを順守しなかった場合や当社の企業価値・株主共同の利益に対する著しい侵害をもたらすおそれのある買付等であると独立委員会が判断した場合は、対抗措置の発動（買付者等による権利行使は認められないとの行使条件を付した新株予約権の無償割当の実施）を勧告します。

2) 当社取締役会の判断およびその判断に係る理由

当社取締役会は、本プランの設計に関し、以下の事項を考慮し、織り込むことにより、本プランが基本方針に従い、当社の企業価値・株主共同の利益に沿うものであり、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

株主意思の反映

本プランは、平成19年6月22日開催の第38回定時株主総会において株主の皆様から承認され、導入

しております。本プランの有効期間は3年間ですが、当社取締役の任期は1年であることから、取締役の選任を通じて株主の皆様の意思を反映させることが可能であります。

独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社取締役会は、本プランの導入にあたり、取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために、本プランの発動および廃止等の運用に際し、実質的な判断を客観的に行う機関として独立委員会を設置いたしました。独立委員会は、当社社外監査役および独立委員会規程に定める要件を満たす社外有識者から当社取締役会が選任した者で構成されております。

実際に当社に買付等がなされた場合には、独立委員会が独立委員会規程に基づいて、当該買付等が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するか否か等の実質的判断を行い、当社取締役会はその判断を最大限尊重して、会社法上の決議を行うこととしております。独立委員会によって、当社取締役会の恣意的行動を厳しく監視するとともに、その判断の概要については株主の皆様には情報開示をすることとしており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資する範囲で本プランの透明な運営が行われる仕組みを確保しております。

合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しております。

独立した外部専門家の意見の取得

独立委員会は、当社の費用で独立した外部専門家（弁護士、税理士、公認会計士、ファイナンシャルアドバイザーおよびコンサルタント等）の助言を得ることができ、独立委員会の判断の公正さ、客観性がより強く担保されております。

なお、買収防衛策の詳細につきましては、当社ウェブサイトをご参照ください。

http://www.snk.co.jp/ir/kaiji_etc.html

(6) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は84百万円であります。なお、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第1四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

設備の新設および除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	84,252,100
計	84,252,100

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成21年8月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,282,225	25,282,225	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	25,282,225	25,282,225		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年6月30日		25,282		5,158		6,887

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付はなく、当第1四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年3月31日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成21年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 26,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,168,500	251,685	
単元未満株式	普通株式 86,925		
発行済株式総数	25,282,225		
総株主の議決権		251,685	

- (注) 1 証券保管振替機構名義の株式が「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式に22,300株(議決権223個)、「単元未満株式」欄の普通株式に80株それぞれ含まれております。
 2 当社所有の自己株式が「単元未満株式」欄の普通株式に36株含まれております。

【自己株式等】

平成21年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 新日本空調株式会社	東京都中央区日本橋 浜町2-31-1	26,800		26,800	0.0
計		26,800		26,800	0.0

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年4月	5月	6月
最高(円)	795	778	749
最低(円)	686	709	696

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)および当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表については、監査法人トーマツにより四半期レビューを受け、当第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)および当第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

なお、従来から当社が監査証明を受けている監査法人トーマツは、監査法人の種類の変更により、平成21年7月1日をもって有限責任監査法人トーマツとなりました。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	4,086	4,016
受取手形・完成工事未収入金	26,347	35,160
未成工事支出金	3,271 ³	2,974
その他のたな卸資産	10 ¹	14 ¹
繰延税金資産	1,910	1,546
その他	1,419	1,636
貸倒引当金	251	279
流動資産合計	36,793	45,069
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	2,588	2,629
その他(純額)	955	930
有形固定資産合計	3,543 ²	3,560 ²
無形固定資産	377	404
投資その他の資産		
投資有価証券	14,368	11,853
繰延税金資産	360	1,081
その他	4,084	4,060
貸倒引当金	1,089	1,091
投資その他の資産合計	17,723	15,903
固定資産合計	21,644	19,868
資産合計	58,438	64,938

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金	20,880	26,849
短期借入金	4,207	4,769
未払法人税等	34	174
未成工事受入金	1,330	906
工事損失引当金	3 439	187
引当金	92	142
その他	1,660	2,627
流動負債合計	28,646	35,658
固定負債		
長期借入金	825	900
退職給付引当金	1,530	1,568
引当金	-	33
その他	742	749
固定負債合計	3,098	3,251
負債合計	31,744	38,909
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,158	5,158
資本剰余金	6,887	6,887
利益剰余金	13,109	13,726
自己株式	18	17
株主資本合計	25,137	25,755
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,566	337
為替換算調整勘定	10	64
評価・換算差額等合計	1,556	273
純資産合計	26,694	26,028
負債純資産合計	58,438	64,938

(2)【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
完成工事高	17,320	14,788
完成工事原価	15,970	14,098
完成工事総利益	1,349	690
販売費及び一般管理費	¹ 1,623	¹ 1,600
営業損失()	273	910
営業外収益		
受取利息	35	15
受取配当金	99	73
為替差益	84	59
その他	30	9
営業外収益合計	250	158
営業外費用		
支払利息	30	13
その他	0	1
営業外費用合計	30	15
経常損失()	53	767
特別利益		
貸倒引当金戻入額	92	27
特別利益合計	92	27
特別損失		
固定資産売却損	2	0
固定資産除却損	2	1
減損損失	³ 21	-
退職給付制度改定損	218	-
特別損失合計	244	2
税金等調整前四半期純損失()	206	741
法人税、住民税及び事業税	30	18
法人税等調整額	76	331
法人税等合計	46	313
四半期純損失()	159	427

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	206	741
減価償却費	111	96
減損損失	21	-
固定資産売却損益(は益)	2	0
固定資産除却損	2	1
貸倒引当金の増減額(は減少)	93	30
退職給付引当金の増減額(は減少)	242	38
工事損失引当金の増減額(は減少)	9	251
受取利息及び受取配当金	135	88
支払利息	30	13
為替差損益(は益)	144	33
売上債権の増減額(は増加)	9,236	8,826
たな卸資産の増減額(は増加)	510	286
仕入債務の増減額(は減少)	8,798	5,977
未成工事受入金の増減額(は減少)	65	423
未払消費税等の増減額(は減少)	-	387
その他	786	542
小計	356	1,487
利息及び配当金の受取額	115	77
利息の支払額	30	13
法人税等の支払額	975	14
営業活動によるキャッシュ・フロー	533	1,536
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	-	100
有価証券の売却による収入	208	-
有形固定資産の取得による支出	36	68
無形固定資産の取得による支出	52	14
固定資産の売却による収入	-	11
投資有価証券の取得による支出	500	597
その他	4	34
投資活動によるキャッシュ・フロー	376	803
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	153	532
長期借入金の返済による支出	75	75
リース債務の返済による支出	-	9
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	189	189
財務活動によるキャッシュ・フロー	111	806
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	42
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,031	31
現金及び現金同等物の期首残高	3,112	3,976
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,081	3,945

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>(完成工事高および完成工事原価の計上基準の変更) 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工期が1年未満または請負金額が1千万円未満については工事完成基準を、その他の工事については工事進行基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>これにより、完成工事高は616百万円増加し、営業損失、経常損失および税金等調整前四半期純損失は101百万円それぞれ減少しております。</p>

【簡便な会計処理】

	当第1四半期連結会計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法	<p>当第1四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。</p>
2 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	<p>法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。</p> <p>繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。</p>

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期連結会計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1 その他のたな卸資産の内訳 材料貯蔵品 1百万円 その他貯蔵品 8百万円 合計 10百万円 2 有形固定資産減価償却累計額 4,319百万円 3 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事 支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで 表示しております。 当該工事損失引当金に対応する当該未成工事支出 金の金額は17百万円であります。	1 その他のたな卸資産の内訳 材料貯蔵品 4百万円 その他貯蔵品 9百万円 合計 14百万円 2 有形固定資産減価償却累計額 4,291百万円

(四半期連結損益計算書関係)

第1四半期連結累計期間

前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)								
1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。 従業員給料手当 677百万円 退職給付費用 48百万円 地代家賃 179百万円 2 当社グループの完成工事高は、通常の営業の形態として、第4四半期に完成する工事の割合が大きい ため、連結会計年度の各四半期の完成工事高の間 に著しい相違があり、各四半期の業績に季節的 変動があります。 3 当社グループは、以下の資産について減損損失を計 上しております。	1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。 従業員給料手当 684百万円 退職給付費用 44百万円 地代家賃 178百万円 2 同左								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北海道 札幌市</td> <td>賃貸用資産</td> <td>建物、土地</td> <td>21百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、事業用資産については管理会計上の区分 (支店等)ごとに、遊休資産および賃貸用資産に ついては個別の物件ごとに、また、連結子会社につ いては会社単位でグルーピングを行っております。 その結果、賃料相場の低迷および継続的な地価 の下落により収益性が著しく低下した賃貸用資産 の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少 額を減損損失21百万円(建物13百万円、土地7百万 円)として特別損失に計上しております。なお、当 該資産の回収可能価額は正味売却価額としており、 重要性があるものについては不動産鑑定基準 に基づく鑑定評価額等に合理的な調整を行って算 出した金額を採用しております。</p>	場所	用途	種類	金額	北海道 札幌市	賃貸用資産	建物、土地	21百万円	
場所	用途	種類	金額						
北海道 札幌市	賃貸用資産	建物、土地	21百万円						

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 2,124百万円	現金及び預金 4,086百万円
預入期間が3か月超の定期預金 42百万円	預入期間が3か月超の定期預金 141百万円
現金及び現金同等物 2,081百万円	現金及び現金同等物 3,945百万円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結会計期間末(平成21年6月30日)および当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(千株)	25,282

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第1四半期 連結会計期間末
普通株式(千株)	27

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	189	7.50	平成21年3月31日	平成21年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

当第1四半期連結会計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)
利益剰余金の減少要因は、平成21年6月に利益剰余金からの配当189百万円を行ったことであります。(配当に関する事項参照)

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)および当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

空調工事業単一セグメントであり、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)および当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

全セグメントの売上高に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第1四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)および当第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1,056.98円	1,030.63円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	26,694	26,028
普通株式に係る純資産額(百万円)	26,694	26,028
普通株式の発行済株式数(千株)	25,282	25,282
普通株式の自己株式数(千株)	27	26
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(千株)	25,255	25,255

2 1株当たり四半期純損失及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
1株当たり四半期純損失 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	6.31円 1株当たり四半期純損失 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失を計上しており、また、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
四半期純損失(百万円)	159	427
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	159	427
普通株式の期中平均株式数(千株)	25,258	25,255

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年 8 月 4 日

新日本空調株式会社

取締役会 御中

監査法人 トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 勝 又 三 郎

指定社員
業務執行社員 公認会計士 藤 原 敏

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新日本空調株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新日本空調株式会社及び連結子会社の平成20年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
 - 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 8月 4日

新日本空調株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 勝 又 三 郎

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤 原 敏

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている新日本空調株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)および第1四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、新日本空調株式会社及び連結子会社の平成21年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
 - 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。